



近日の東相催は益々西情詳事未實矣先般  
上京の節は色々而無理お頼は亦西聞を難  
有る事有矣而高陰より失望せざる勉強致し  
将来成切と報恩と二期し居矣

却説増島氏より先方上之付に相談お受は  
同氏の儀切に西に配は英玉忙師クウラス氏  
之れに紹介の上同氏より助ヶ当地増島了務所  
ノ事務ヲ担当致し様勸誘相受は物ハ郵船會  
社ノ方都合有之又栗玉氏より即聞之達し居  
る事有之由之付ハ二月月程猶豫致矣上申  
入山和物方上之付テ自分ノ意見西二方ニ開陳  
スルハ善交ナキヤト而後之而望は間同氏ノ



信印ヲ謝し物一才上之関スル即意見即開陳打成山  
 事ハ善思トモ之決して善支無元十分ノ而批評  
 之願上交旨返答致置山然之同氏の東後早  
 速答上意見開陳ヒ奉由事物ハ文通有之  
 又大石ノ兩傳言ニヨリ即開言モ持奉致置山就テハ  
 早速書面呈上ノ仕ル処取給進引ノ暇不要而  
 容致ヒ奉ヒ交増島氏ハ前陳ノ通會托ノ都  
 合ト重危氏ノ關係上モ有之ハ故夫ノ話ノ向シカ  
 定ニ進向ニ月尚猶祿取致旨更ニ書面  
 可次テ申入置山間不取致ハ致申上置山向シ矣  
 中重子速陳ノ仕美石中進進  
 十  
 印伯父持  
 印伯母持  
 印中進進

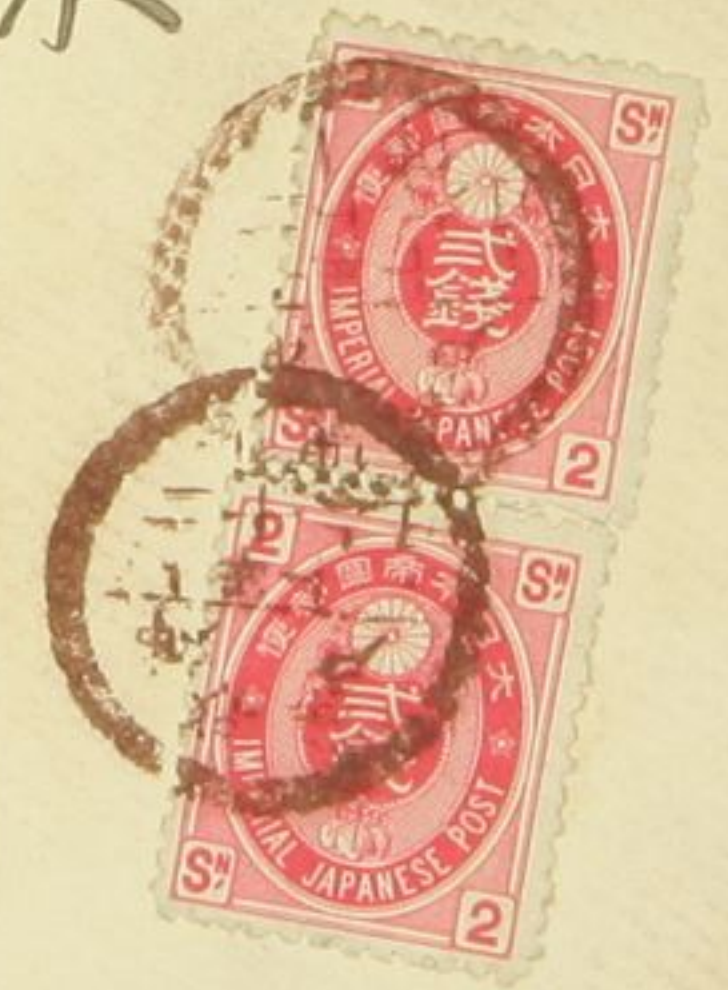
大八郎

必親長

閣下

大隈重信伯

東京  
外務省官舎





日本郵船株式會社神戸支店

相良大八郎